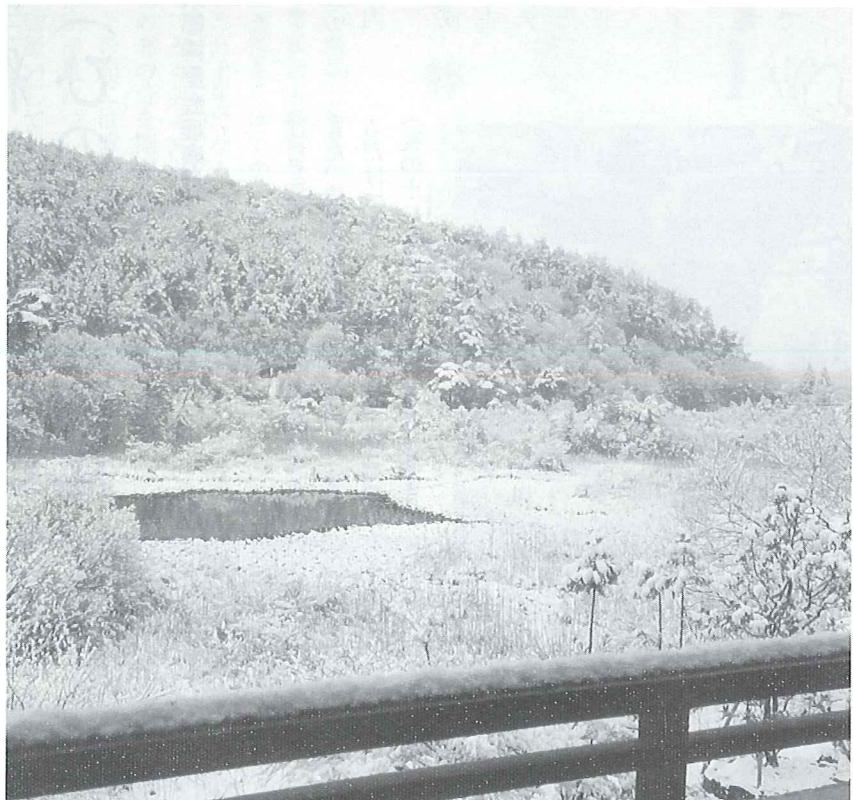


はくあい

Jan. 1996
第 10 号

社会福祉法人
京都博愛会



深泥池雪景色（病院の窓より）

CONTENTS

- 心臓治療
- 看護物語
- お薬 Q & A
- ご飯の良さ
- 訪問看護



社会福祉法人 京都博愛会

京都博愛会病院

〒603 京都市北区上賀茂ケシ山1
TEL 075(781)1131

富田病院

〒603 京都市北区小山下内河原町56
TEL 075(491)3241

訪問看護 はくあい

〒603 京都市北区上賀茂深泥池
TEL 075(781)2711

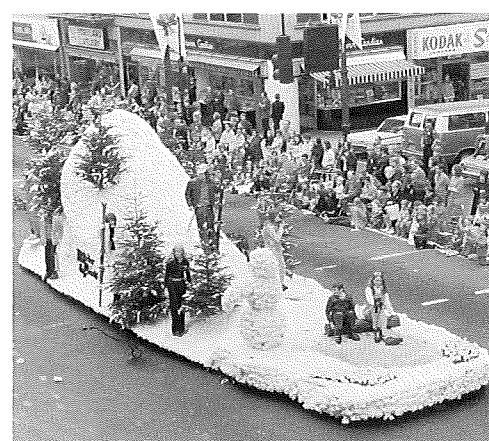
一九九六年（皇紀二六五六六年） 平成八年丙子（ひのえね）閏年

京都博愛会理事長 富田 仁

日本の暦は、紀元前の古代中国で始まりました十二支一子（ね）・丑・寅・卯・辰・巳・午・未・申・酉・戌・亥と十干一甲・乙・丙（ひのゑ）・丁・戊・己・庚・辛・壬・癸）とが、相互に組み合わされて、六十干支が成り立っています。この六十干支の総称を古くから一般に「えと」と呼んでおります。天然の気候の変化を人類に応用しましたのとては、人類最高と思われますので、毎年正月となりますとこれを思い出しております。外国のクリスマスディよりも遙かに自然でよいと思います。

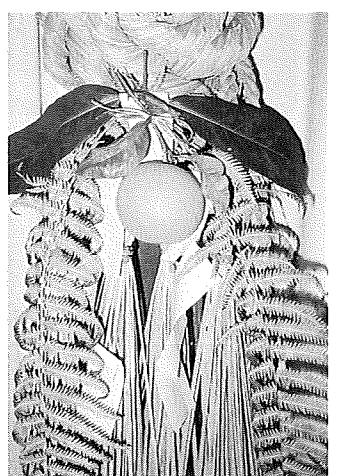
子（ねずみ）は田畠や人家で害をなしますので、人ににくまれておりますが、十二支では一番トップにあてられて尊ばれています。特に白ねずみは大黒様の使者といい、古くから吉兆とされていました。その他、ねずみが人に財宝を与えたとか、宮様を火の中から助

けたとか、いろいろの美談が伝わっています。また、子（ね）は、十二支の第一番目に位するだけでなく、方角では北、時刻では真夜中（夜の十二時頃）を占領しております。私も



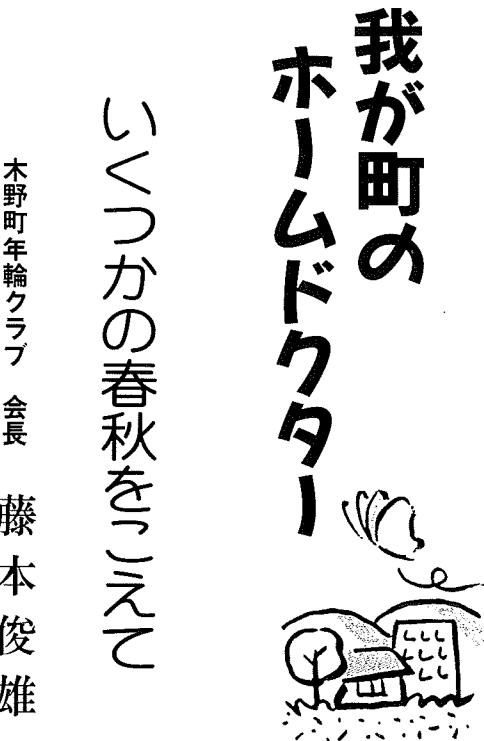
アメリカ、ポートランドバラの花

京都の有名人の会で、何年生まれの人が多いかと調査したことがあります。子の年の人気が非常に多くびっくりした事があります。本年は、祝日、休日が多いので、それを書いてみましょう。元日（1/1）、成人の日（1/15）、建国記念日・日曜（2/11）、振替休日（2/12）、春分の日（3/20）、みどりの日（4/29）、憲法記念日（5/3）、休日（5/4）、こどもの日・日曜（5/5）、振替休日（5/6）、海の日（7/20）、敬老の日・日曜（9/15）、振替休日（9/16）、秋分の日（9/23）、体育の日（10/10）、文化の日・日曜（11/3）、振替休日（11/4）、勤労感謝の日（11/23）、天皇誕生日（12/23）。本年は経済的に政治的に、また医療、保険、福祉的に難しい年となります。頑張りましょう。



正月のしめ縄。日本の方々が自然でよろしい

明治が大正に移る頃、洛北岩倉の地に生をうけて八十有三年よくも永らえたものと我ながら感じる今日この頃です。この八十年間これという病氣にもかからず、元気で過ごせたことはまず両親が健健康体であつたことと周囲の環境が良好であったことが大きな原因と今も心から感謝しています。今年も毎年のように深泥ヶ池には北の国から水鳥が羽を休める季節になつてしまりました。加茂川には早、



木野町年輪クラブ 会長 藤本俊雄

都鳥が飛来したとかの便りがあります。私は木野町年輪クラブの会長に選任をうけてから早いものでかれこれ十年になろうとしております。毎年四月中には年二回ある総会の春の分を開催しておりますが、その節には博愛会病院の先生に何か病氣についてのお話を承るよう御願いしておりますが、その節にはわざわざ院長先生が御出席の上約一時間に亘り有意義な講話を拝聴しております。その上その



都度病院お手製の昼食を頂いて大変恐縮しております。もう何年かになります。私は年に亘つて御世話になりますが今年の三月頃家内が白内障を患い十日余り御世話になりますが、その節には博愛会病院の先生に何か病氣についてのお話を承ります。毎年十日余り御世話になりますが、その節には博愛会病院の先生に何か病氣についてのお話を承ります。心から御礼申しあげます。

その時も十日余り御世話になります。それ以来週三回友達とのゲートボールを楽しんでおりました。二度共看護婦さんたちの親切な看護と先生の的確な治療によ

ります。心から御礼申しあげます。

最前線 医療の 狭心症、心筋梗塞の症状の 多様性と治療法の選択について

富田病院内科医長
富田哲也

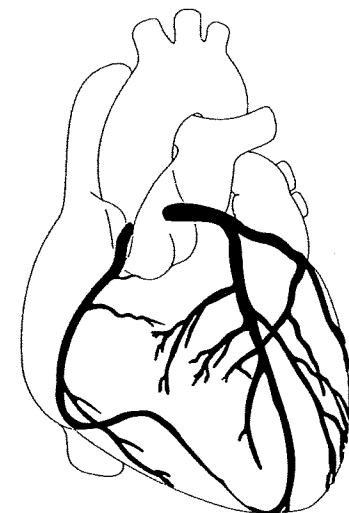
(1) 胸痛の感受性の

(個人差と多様性) 心臓の筋肉に酸素と栄養を送つ
て いる 冠動脈血流の 不足 によつて
起 こる 狹心症発作 の 症状 は、 典型
的 には 胸 が 締めつけ られる ような
胸部 厳迫 感 です が、 頻度 は 少ない
もの の 頸だけ の 痛み 、 左肩 、 左手
の 鈍痛 、 背部 痛 、 上腹部 痛 、 全身
倦怠感 のみ の 場合 、 冷や汗 のみ の
場合 など 多様な 症状 が あり 、 重症
度と 痛み の 程度 も 必ずしも 相関せ
ず 、 また 痛み を ほとんど 自覚 しな
い 場合 も あ ります。 (糖尿病 の 罹
患期間 の 長い 方 に 末梢神経障害 の
ためか 胸痛 が 軽度 の こと が 多い よ
う で す)

胸痛をおこす他の疾患には胸部大動脈瘤、不整脈（期外収縮や短時間の頻脈発作）、肋間神経痛（胸膜炎など）、肺塞栓、過換気症候群、胸部や背中にできる帶状疱疹（ヘルペス）、逆流性食道炎、白血病の胸骨痛などがあり、また高度の心肥大（大動脈弁狭窄症、肥大型心筋症、長期にわたる重症高血圧症）では冠動脈に病変がなくとも相対的血流不足で狭心症様胸痛がおこりえます。

(2) 狹心症(虚血性) 心疾患の診断

、精神科



心臓の冠動脈

治療では、普段から
狭心症状のある人
の方が心筋梗塞に
なった場合の心筋
障害の影響が少な
く、以前に一度も
胸痛の既往のない
人が突然心筋梗塞
になった場合の方
が心筋障害が強く、
重症になりやすい
ことを経験してお

(3) 治療法の選択

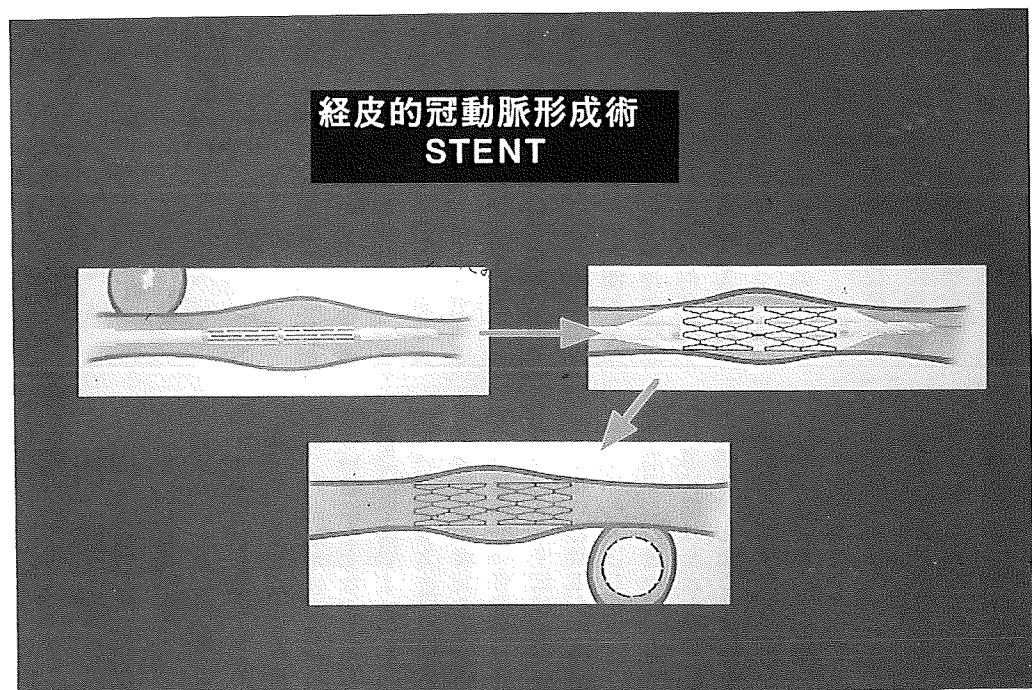
動脈硬化のない冠血管攣縮性狭窄症（異型狭心症ともいいます）は薬だけで発作を止めまた予防できます。しかし長い発作から危険な不整脈が出現したり、血栓を生じ急性心筋梗塞になる時もあり、発作時には注意が必要です。

急性心筋梗塞に対してはできるだけ早い時期に可能な環境でれば冠動脈造影で閉塞部位を確認し経皮的冠動脈形成術（PTCA “風船療法”）で閉塞血管を再還流することにより心筋障害、合併症や後遺症を少なくし、予後を大幅に改善すると言われています。

発症のごく早期であれば血栓溶解剤の静注や冠動脈注入も閉塞血管を再還流できる可能性があります。

PTCAは動脈硬化による冠動脈の狭窄病変を風船の圧力で押し広げるもので、血管造影とほぼ同じ鼠径部の局所麻酔ですみ、翌日には歩けるため開胸によるバイパス。

(3) 治療法の選択



(図1) 冠動脈ステント

手術以上に侵襲が少ないのと
こ十年ほどで飛躍的に広まりました。ただ再狭窄が三五・四五%程
あり再度のPTCAも約三割の確
率があることが大きな問題点でした。平成六年よりステントが保険
診療で使用できるようになり太い
血管しか使用できませんが、急性
冠閉塞が少なく再狭窄等が二〇%
以内との報告が多く今一番期待さ
れている治療法です。ステントは
ステンレススチールの金網のよう
なもので折りたたんだ状態で風船
にかぶせられており、風船が狭くなつたところで膨らませられると
ステントも広がり血管の壁に密着
して血管内にそのまま残り、血管
が狭くなるのを防いでくれます。
(図1) その他DCAという特殊
な風船もあり、症例によつては有
効に利用されています。PTCA
の器具の進歩は著しく薬の進歩も
あり、成功率は将来もつとよくな
るでしょうが大切なのは、普段か
らの予防医学であり、高血圧、高
脂血症、肥満、糖尿病、喫煙など
放置せず、少しでも改善するよう
努力することが重要かと思います。

看護物語

富田病院看護婦

和泉ふじえ

看護婦への思い

看護婦との出会い

私の看護婦になりたいとの夢のはじまりは、小学生の頃だったようだ。まだ、自分の将来についてなど考えたことのない四年生のある日、祖母が入院したのである。私にとって初めての病院は、薬の臭いがきつく、シーンと静まり返つて、何か異様な別の世界であった。

ベッドに横たわる青白い顔の祖母を見て、幼な心に大変なショックを受け、一人病室を出ると、そこで初めて白衣を着た人を見た。

その人は、なぜか泣いていて、その姿が頭に焼きつき、ずっと離れずにいた。祖母は、手術をするために入院したらしいが、拒否し、

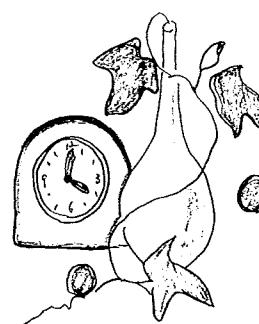
家に帰ることを望み家での療養となつた。祖母が何の病気であるのかなど、もちろん私は分からなかつたが、大のおばあちゃん子であつた私は、何かしてあげたいと子供心に必死で考えた。

私の出した結論は、祖母の横で毎晩一緒に寝てあげること。それから私は、祖母の布団に毎晩のようにもぐり込み、祖母の寝息を聞きながら安心して、何日かの朝を迎えた。今ではつきりと覚えてるのは、祖母が逝つた前の晩も、手足の冷たい祖母の横にもぐつて寝たことである。

祖母の入院、病院での看護婦の姿、そして自宅での療養生活を目の当たりに見て、この頃から私は看護婦になりたいとの思いが芽ばえ、その思いを私は実現すること

ができた。

出発



卒業して数年、学校での学びの再学習、更に学びを深めるようにと、研修に行く機会も数多く与えられ、看護学のみでなく、様々な学びの場や、人の新たな出会いの場を与えて戴いている。

とても嬉しく感謝でいっぱいである。

卒業時、学校長である富田理事長より、私たち、卒業生に送られた言葉は、「看護に当たる人は、今後一生涯、いろいろの異なる人に接觸して行かなくてはなりません。同じことをしても喜ばれることもあります。その解決には、患者さんとの信頼関係を得ることが最も大切で、真理だけでは通用しません。看護学には、専門の医学、看護学以外に人間性を高めるような勉強

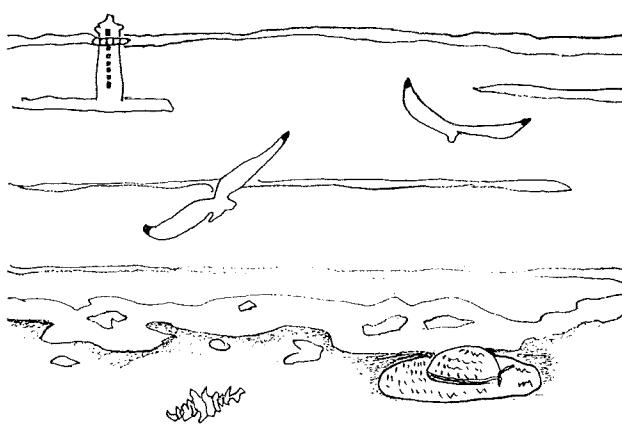
も大切なことです」との言葉を戴いた。患者さんとの日々の関わりの中で、この言葉の意味を実感し、学校での学びや、研修での学びを、看護の中で生かせるよう努力することを、今後も忘れないでいたい。

最近あるスタッフが、研修での学びで、リーダーとは、との意見を述べていた。「そこにその人がいるから安心して働ける」：その言葉に、私はとても感銘を受けた。

今、私の周囲には、尊敬する上司、スタッフが数多くいる。その人たちの看護に対する姿勢や、仲間にに対する思いやり、やさしさを日々感じながら、私もまたそのスタッフの一人であることに、幸せを感じつづけ、毎日が、学びの場である。



幼い頃の夢、看護婦になりたい、その思いは、今現実となつていて。京都へ来て幾年、最近、つづく年を取つたと思う。京都が好きで、こんな



新しい職場、富田病院、とても第一印象であった。三十歳をとつてからは、数年を、今治県立病院そして宇和島市立病院で勤務した。適齢期が近づき、何となく見合い結婚をする友人たちを見て、「私は何か違うことを少ししてみたい」、そんな思いにかられ、看護学雑誌の求人広告を頼つて、一人京都へやつて來た。京都での就職先は、五十床程の外科病院、忙しいだけの数年をその病院で過ごした。進学して看護婦の免許を取りたいとの思いはその頃ではなく、仕事に慣れ友人もできると自分の時間は、友人と旅行や、サークル活動に精を出し、自分なりに、仕事、遊びと充実した日々だったように思う。

しかし、あるきっかけで、十一年も務めた病院を退職、とにかくほとんどが女性の職場、様々な人間模様があり、田舎者の私には乘り切れない悩みや痛みが山積みさ

れていたが、病院を変え、環境を変えたことで、その悩みや痛みは吹き飛んだ。

